



## トレース

---

- [トレースについて](#) (2 ページ)
- [set platform software trace](#) (5 ページ)
- [show platform software trace filter-binary](#) (9 ページ)
- [show platform software trace message](#) (10 ページ)
- [show platform software trace level](#) (16 ページ)
- [request platform software trace archive](#) (20 ページ)
- [request platform software trace rotate all](#) (21 ページ)
- [request platform software trace filter-binary](#) (22 ページ)

# トレースについて

## トレースの概要

トレース機能により内部イベントが記録されます。トレースファイルは自動的に作成され、`crashinfo` の下の `tracelogs` サブディレクトリに保存されます。

トレースファイルのデータは、次の処理を行う場合に役立ちます。

- **トラブルシューティング**：スイッチに問題がある場合、トレースファイルの出力により、問題の特定および解決に使用できる情報が得られる場合があります。
- **デバッグ**：トレースファイルの出力は、システム動作の詳細情報を得るために役立ちます。

特定のモジュールに関する最新のトレース情報を表示するには、**`show platform software trace message`** コマンドを使用します。

トレースレベルを変更してトレースメッセージ出力の量を調整するために、**`set platform software trace`** コマンドを使用して新しいトレーシングレベルを設定できます。トレースレベルは、**`set platform software trace`** コマンドで **`all-modules`** キーワードを使用してプロセスごとに設定することも、プロセス内のモジュールごとに設定することもできます。

## トレースログの場所

各プロセスは、`btrace` インフラストラクチャを使用してトレースメッセージをログに記録します。プロセスがアクティブのときは、対応するインメモリトレースログが `/tmp/<FRU>/trace/` ディレクトリにあります。ここで、`<FRU>` は、プロセスが実行されている場所 (`rp`、`fp`、または `cc`) を表します。

トレースログファイルがプロセスに関して許可されている最大ファイルサイズの上限に達すると、またはプロセスが終了すると、次のディレクトリにローテーションされます。

- `/crashinfo/tracelogs` (スイッチで `crashinfo`: パーティションを使用できる場合)
- `/harddisk/tracelogs` (スイッチで `crashinfo`: パーティションを使用できない場合)

トレースログファイルは、ディレクトリに保存される前に圧縮されます。

## トレースログの命名規則

`btrace` を使用して作成されるすべてのトレースログには、次の命名規則が適用されます。

`<process_name>_<FRU><SLOT>-<BAY>.<pid>_<counter>.<creation_timestamp>.bin`

ここで、`counter` は、64 ビットのフリーランニングカウンタで、当該プロセスの新しいファイルが作成されるたび増加します。たとえば、`wcm_R0-0.1362_0.20151006171744.bin` ようになります。圧縮されると、ファイル名に `gz` 拡張子が付加されます。

### トレースログのサイズの上限およびローテーションポリシー

トレースログファイルの最大サイズはプロセスごとに 1 MB で、保持されるトレースログファイルの最大数はプロセスごとに 25 です。

## ローテーションおよびスロットリングポリシー

最初は、すべてのトレースログファイルが、初期ディレクトリの `/tmp/<FRU>/trace` から中継ディレクトリの `/tmp/<FRU>/trace/stage` に移されます。次に、`btrace_rotate` スクリプトによって、これらのトレースログが中継ディレクトリから `/crashinfo/tracelogs` ディレクトリに移されます。プロセスごとに `/crashinfo/tracelogs` ディレクトリに保存されるファイルの数が最大数の上限に達すると、そのプロセスの最も古いファイルが削除されますが、それより新しいファイルは保持されます。これは、最悪の場合、60分ごとに繰り返されます。

その他、次の 2 種類のファイルセットが `/crashinfo/tracelogs` ディレクトリからパージされます。

- 標準命名規則を持たないファイル (`fed_python.log` などのいくつかの例外を除く)
- 2 週間以上保持されたファイル

エラーのあるプロセスがスイッチの機能に影響を与えないように、スロットリングポリシーが導入されました。プロセスが非常に高い頻度でログを記録する（たとえば、そのプロセスに関して中継ディレクトリに 4 秒間隔で 17 以上のファイルが保存される）場合は常に、そのプロセスがスロットリングされます。そのプロセスのファイルは `/tmp/<FRU>/trace` から `/tmp/<FRU>/trace/stage` にローテーションされませんが、最大サイズに達すると削除されます。ファイル数が 7 以下になるとスロットリングが再度有効になります。

## トレースレベル

トレースレベルは、トレースバッファまたはトレースファイルに保存する必要のあるモジュール情報の量を決定します。

次の表に、使用可能なすべてのトレースレベルを示し、各トレースレベルで表示されるメッセージについて説明します。

表 1: トレースレベルとその内容

トレースレベル	説明
Emergency	システムが使用不能になる問題のメッセージです。

トレースレベル	説明
Error	システムエラーについてのメッセージです。
Warning	システム警告についてのメッセージです。
Notice	重大な問題に関するメッセージです。ただし、スイッチは通常どおり動作しています。
Informational	単に情報を提供するだけのメッセージです。
Debug	デバッグレベルの出力を提供するメッセージです。
Verbose	生成可能なすべてのトレースメッセージが送信されます。
Noise	モジュールについての生成可能なすべてのトレースメッセージが記録されます。  ノイズレベルは常に最上位のトレースレベルに相当します。今後、トレース機能の拡張が行われ、さらに低いトレースレベルが導入された場合でも、ノイズレベルはこの新しい拡張機能のレベルと同じレベルに相当します。

## set platform software trace

プロセス内の特定のモジュールのトレースレベルを設定するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **set platform software trace** コマンドを使用します。

**set platform software trace** *process slot module trace-level*

---

### 構文の説明

*process*

トレースレベルが設定されているプロセス。次のオプションがあります。

- **chassis-manager** : Chassis Manager プロセス。
  - **cli-agent** : CLI Agent プロセス。
  - **dbm** : Database Manager プロセス。
  - **emd** : Environmental Monitoring プロセス。
  - **fed** : Forwarding Engine Driver プロセス。
  - **forwarding-manager** : Forwarding Manager プロセス。
  - **host-manager** : Host Manager プロセス。
  - **iomd** : Input/Output Module daemon (IOMd) プロセス。
  - **ios** : IOS プロセス。
  - **license-manager** : License Manager プロセス。
  - **logger** : Logging Manager プロセス。
  - **platform-mgr** : Platform Manager プロセス。
  - **pluggable-services** : Pluggable Services プロセス。
  - **replication-mgr** : Replication Manager プロセス。
  - **shell-manager** : Shell Manager プロセス。
  - **smd** : Session Manager プロセス。
  - **table-manager** : Table Manager サーバ。
  - **wireless** : ワイヤレスコントローラモジュールプロセス。
  - **wireshark** : Embedded Packet Capture (EPC) Wireshark プロセス。
-

---

*slot*

トレース レベルが設定されているプロセスを実行中のハードウェア スロット。次のオプションがあります。

- **number** : トレース レベルが設定されているハードウェア モジュールの SIP スロットの数。たとえば、スイッチの SIP スロット 2 の SIP を指定する場合は、「2」と入力します。
- **SIP-slot/SPA-bay** : SIP スイッチ スロットの数とその SIP の共有ポート アダプタ (SPA) ベイの数。たとえば、スイッチ スロット 3 の SIP のベイ 2 の SPA を指定する場合は、「3/2」と入力します。
- **F0** : スロット 0 の Embedded-Service-Processor。
- **FP active** : アクティブな Embedded-Service-Processor。
- **R0** : スロット 0 のルート プロセッサ。
- **RP active** : アクティブなルート プロセッサ。
- **switch <number>** : 指定された番号を持つスイッチ。
- **switch active** : アクティブなスイッチ。
- **switch standby** : スタンバイスイッチ。

---

*module*

トレース レベルが設定されているプロセス内のモジュール。

---

*trace-level*

トレース レベルです。次のオプションがあります。

- **debug** : デバッグレベルのトレーシング。デバッグレベルのトレースメッセージは、モジュールに関する大量の詳細を提供する緊急でないメッセージです。
- **emergency** : 緊急事態レベルのトレーシング。緊急レベルのトレースメッセージは、システムが使用不能であることを示すメッセージです。
- **error** : エラーレベルのトレーシング。エラーレベルのトレースメッセージは、システムエラーを示すメッセージです。
- **info** : 情報レベルのトレーシング。情報レベルのトレースメッセージは、システムに関する情報を提供する緊急でないメッセージです。
- **noise** : ノイズレベルのトレーシング。ノイズレベルは、常に可能なトレースレベルの中の最高レベルに相当し、考えられるすべてのトレースメッセージを生成します。  
  
ノイズレベルは、モジュールに関して可能な最高レベルのトレースメッセージに相当します。これは、このコマンドの将来の拡張で、ユーザが寄り高いトレースレベルを設定できるオプションが追加された場合にも、当てはまります。
- **notice** : 重大な問題に関するメッセージです。ただし、スイッチは通常どおり動作しています。
- **verbose** : 詳細レベルのトレーシング。トレースレベルが **verbose** に設定されている場合は、考えられるすべてのトレースメッセージが送信されます。
- **warning** : 警告メッセージ。

コマンド デフォルト

すべてのモジュールのデフォルトのトレースレベルは **notice** です。

コマンド モード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリー 変更内容  
ス

このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

*module* オプションは、プロセスおよび *hardware-module* によって異なります。このコマンドを入力する際に、各キーワードシーケンスで使用可能な *module* オプションを確認するには、? オプションを使用します。

トレースメッセージを表示するには、**show platform software trace message** コマンドを使用します。

トレース ファイルは、**harddisk:** ファイル システムのトレースログ ディレクトリに保存されます。これらのファイルは、スイッチの動作に影響を与えずに削除できます。

トレース ファイル出力は、デバッグに使用されます。トレース レベルは、モジュールに関するどのぐらいの量の情報をトレース ファイルに保存するかを決定する設定です。

## 例

次に、**dbm** プロセスのすべてのモジュールのトレース レベルを設定する例を示します。

```
# set platform software trace dbm R0 all-modules debug
```

# show platform software trace filter-binary

特定のモジュールの最新のトレース情報を表示するには、特権EXECモードまたはユーザEXECモードで **show platform software trace filter-binary** コマンドを使用します。

**show platform software trace filter-binary** *modules* [**context** *mac-address*]

## 構文の説明

**context***mac-address*

フィルタ処理に使用されるコンテキストを表します。また、モジュール名とトレース レベルに基づいてフィルタ処理できます。コンテキスト キーワードは、タグが付いているトレースに基づき MAC アドレスまたは他の引数を受け入れます。

## コマンドモード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このコマンドは、モジュールに関連するすべてのプロセス全体で /tmp/.../ に存在するすべてのログを照合してソートします。指定されたモジュールに関連するすべてのプロセスのトレース ログがコンソールに出力されます。このコマンドでは、同じコンテンツの `collated_log_{system time}` という名前のファイルも /crashinfo/tracelogs ディレクトリに生成されます。

## 例

次に、ワイヤレス モジュールのトレース情報を表示する例を示します。

```
# show platform software trace filter-binary wireless
```

## show platform software trace message

プロセスのトレースメッセージを表示するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **set platform software trace** コマンドを使用します。

**show platform software trace message** *process slot*

## 構文の説明

*process*

設定されているトレースレベル。次のオプションがあります。

- **chassis-manager** : Chassis Manager プロセス。
- **cli-agent** : CLI Agent プロセス。
- **cmm** : CMM プロセス。
- **dbm** : Database Manager プロセス。
- **emd** : Environmental Monitoring プロセス。
- **fed** : Forwarding Engine Driver プロセス。
- **forwarding-manager** : Forwarding Manager プロセス。
- **geo** : Geo Manager プロセス。
- **host-manager** : Host Manager プロセス。
- **interface-manager** : Interface Manager プロセス。
- **iomd** : Input/Output Module daemon (IOMd) プロセス。
- **ios** : IOS プロセス。
- **license-manager** : License Manager プロセス。
- **logger** : Logging Manager プロセス。
- **platform-mgr** : Platform Manager プロセス。
- **pluggable-services** : Pluggable Services プロセス。
- **replication-mgr** : Replication Manager プロセス。
- **shell-manager** : Shell Manager プロセス。
- **sif** : Stack Interface (SIF) Manager プロセス。
- **smd** : Session Manager プロセス。
- **stack-mgr** : Stack Manager プロセス。
- **table-manager** : Table Manager サーバ。
- **thread-test** : Multithread Manager プロセス。
- **virt-manager** : Virtualization Manager プロセス。
- **wireless** : ワイヤレス コントローラ モジュール プロセス。

---

*slot*

トレース レベルが設定されているプロセスを実行中のハードウェア スロット。次のオプションがあります。

- **number** : トレース レベルが設定されているハードウェア モジュールの SIP スロットの数。たとえば、スイッチの SIP スロット 2 の SIP を指定する場合は、「2」と入力します。
- **SIP-slot/SPA-bay** : SIP スイッチ スロットの数とその SIP の共有ポートアダプタ (SPA) ベイの数。たとえば、スイッチ スロット 3 の SIP のベイ 2 の SPA を指定する場合は、「3/2」と入力します。
- **F0** : Embedded Service Processor スロット 0。
- **FP active** : アクティブな Embedded Service Processor。
- **R0** : スロット 0 のルート プロセッサ。
- **RP active** : アクティブなルート プロセッサ。
- **switch <number>** : 指定された番号を持つスイッチ。
- **switch active** : アクティブなスイッチ。
- **switch standby** : スタンバイスイッチ。
  - **number** : トレース レベルが設定されているハードウェア モジュールの SIP スロットの数。たとえば、スイッチの SIP スロット 2 の SIP を指定する場合は、「2」と入力します。
  - **SIP-slot/SPA-bay** : SIP スイッチ スロットの数とその SIP の共有ポートアダプタ (SPA) ベイの数。たとえば、スイッチ スロット 3 の SIP のベイ 2 の SPA を指定する場合は、「3/2」と入力します。
  - **F0** : スロット 0 の Embedded Service Processor。
  - **FP active** : アクティブな Embedded Service Processor。
  - **R0** : スロット 0 のルート プロセッサ。
  - **RP active** : アクティブなルート プロセッサ。

サ。

---

**コマンドモード**

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

---

**コマンド履歴**

リリース 変更内容  
ス

---

このコマンドが導入されました。

---



---

**例**

次に、Stack Manager プロセスおよび Forwarding Engine Driver プロセスのトレースメッセージを表示する例を示します。

```
# show platform software trace message stack-mgr switch active R0
10/30 09:42:48.767 [btrace] [8974]: (note): Successfully registered module [97] [uiutil]
10/30 09:42:48.762 [btrace] [8974]: (note): Successfully registered module [98]
[tdl_cdlcore_message]
10/29 13:28:19.023 [stack_mgr] [8974]: (note): Examining peer state
10/29 13:28:19.023 [stack_mgr] [8974]: (note): no switch eligible for standby election
presently
10/29 13:28:19.022 [stack_mgr] [8974]: (note): Posting event
stack_fsm_event_wait_standby_elect_timer_expired, curstate stack_fsm_state_active_ready
10/29 13:28:19.022 [stack_mgr] [8974]: (note): Timer HDL - STACK_WAIT_STANDBY_ELECT_TIMER
expired
10/29 13:26:46.584 [btrace] [8974]: (note): Successfully registered module [99]
[tdl_ui_message]
10/29 13:26:46.582 [bipc] [8974]: (note): Pending connection to server 10.129.1.0
10/29 13:26:36.582 [evutil] [8974]: (ERR): Connection attempt for sman-ui-serv (uipeer
uplink to slot 1) failed, invoking disconnect
10/29 13:26:36.582 [evutil] [8974]: (ERR): Asynchronous connect failed for [uipeer uplink
to slot 1] (fd == -1)
10/29 13:26:36.581 [bipc] [8974]: (note): Pending connection to server 10.129.1.0
10/29 13:26:26.581 [evutil] [8974]: (ERR): Connection attempt for sman-ui-serv (uipeer
uplink to slot 1) failed, invoking disconnect

# show platform software trace message fed switch active
11/02 10:55:01.832 [btrace]: [11310]: UUID: 0, ra: 0 (note): Successfully registered
module [86] [uiutil]
11/02 10:55:01.848 [btrace]: [11310]: UUID: 0, ra: 0 (note): Single message size is
greater than 1024
11/02 10:55:01.822 [btrace]: [11310]: UUID: 0, ra: 0 (note): Successfully registered
module [87] [tdl_cdlcore_message]
11/01 09:54:41.474 [btrace]: [12312]: UUID: 0, ra: 0 (note): Successfully registered
module [88] [tdl_ngwc_gold_message]
11/01 09:54:11.228 [btrace]: [12312]: UUID: 0, ra: 0 (note): Successfully registered
module [89] [tdl_doppler_iosd_matm_type]
11/01 09:53:37.454 [btrace]: [11310]: UUID: 0, ra: 0 (note): Successfully registered
module [90] [tdl_ui_message]
11/01 09:53:37.382 [bipc]: [11310]: UUID: 0, ra: 0 (note): Pending connection to server
10.129.1.0
11/01 09:53:34.227 [xcvr]: [18846]: UUID: 0, ra: 0 (ERR): FRU hardware authentication
Fail, result = 1.
11/01 09:53:33.775 [ng3k_scc]: [18846]: UUID: 0, ra: 0 (ERR): SMART COOKIE: SCC I2C
receive failed: rc=10
11/01 09:53:33.775 [ng3k_scc]: [18846]: UUID: 0, ra: 0 (ERR):
```

```
SMART COOKIE receive failed, try again  
11/01 09:53:33.585 [ng3k_scc]: [18846]: UUID: 0, ra: 0 (ERR):
```

## show platform software trace level

特定のプロセスですべてのモジュールのトレース レベルを表示するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **show platform software trace level** コマンドを使用します。

**show platform software trace level** *process slot*

## 構文の説明

*process*

トレースレベルが設定されているプロセス。次のオプションがあります。

- **chassis-manager** : Chassis Manager プロセス。
- **cli-agent** : CLI Agent プロセス。
- **cmm** : CMM プロセス。
- **dbm** : Database Manager プロセス。
- **emd** : Environmental Monitoring プロセス。
- **fed** : Forwarding Engine Driver プロセス。
- **forwarding-manager** : Forwarding Manager プロセス。
- **geo** : Geo Manager プロセス。
- **host-manager** : Host Manager プロセス。
- **interface-manager** : Interface Manager プロセス。
- **iomd** : Input/Output Module daemon (IOMd) プロセス。
- **ios** : IOS プロセス。
- **license-manager** : License Manager プロセス。
- **logger** : Logging Manager プロセス。
- **platform-mgr** : Platform Manager プロセス。
- **pluggable-services** : Pluggable Services プロセス。
- **replication-mgr** : Replication Manager プロセス。
- **shell-manager** : Shell Manager プロセス。
- **sif** : Stack Interface (SIF) Manager プロセス。
- **smd** : Session Manager プロセス。
- **stack-mgr** : Stack Manager プロセス。
- **table-manager** : Table Manager サーバ。
- **thread-test** : Multithread Manager プロセス。
- **virt-manager** : Virtualization Manager プロセス。
- **wireless** : ワイヤレス コントローラ モジュール プロセス。

slot

トレースレベルが設定されているプロセスを実行中のハードウェアスロット。次のオプションがあります。

- **number** : トレースレベルが設定されているハードウェアモジュールの SIP スロットの数。たとえば、スイッチの SIP スロット 2 の SIP を指定する場合は、「2」と入力します。
- **SIP-slot/SPA-bay** : SIP スイッチスロットの数とその SIP の共有ポートアダプタ (SPA) ベイの数。たとえば、スイッチスロット 3 の SIP のベイ 2 の SPA を指定する場合は、「3/2」と入力します。
- **F0** : スロット 0 の Embedded Service Processor。
- **F1** : スロット 1 の Embedded Service Processor。
- **FP active** : アクティブな Embedded Service Processor。
- **R0** : スロット 0 のルートプロセッサ。
- **RP active** : アクティブなルートプロセッサ。
- **switch <number>** : 指定された番号を持つスイッチ。
- **switch active** : アクティブなスイッチ。
- **switch standby** : スタンバイスイッチ。
  - **number** : トレースレベルが設定されているハードウェアモジュールの SIP スロットの数。たとえば、スイッチの SIP スロット 2 の SIP を指定する場合は、「2」と入力します。
  - **SIP-slot/SPA-bay** : SIP スイッチスロットの数とその SIP の共有ポートアダプタ (SPA) ベイの数。たとえば、スイッチスロット 3 の SIP のベイ 2 の SPA を指定する場合は、「3/2」と入力します。
  - **F0** : スロット 0 の Embedded Service Processor。
  - **FP active** : アクティブな Embedded Service Processor。
  - **R0** : スロット 0 のルートプロセッサ。
  - **RP active** : アクティブなルートプロセッサ。

コマンドモード

ユーザ EXEC (&gt;)

特権 EXEC (#)

コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

このコマンドが導入されました。

例

次に、トレース レベルを表示する例を示します。

```
# show platform software trace level dbm switch active R0
Module Name                Trace Level
-----
binos                       Notice
binos/brand                 Notice
bipc                       Notice
btrace                     Notice
bump_ptr_alloc             Notice
cdllib                     Notice
chasfs                     Notice
dbal                       Informational
dbm                         Debug
evlib                      Notice
evutil                    Notice
file_alloc                 Notice
green-be                   Notice
ios-avl                    Notice
klib                       Debug
services                   Notice
sw_wdog                    Notice
syshw                     Notice
tdl_cdlcore_message       Notice
tdl_dbal_root_message     Notice
tdl_dbal_root_type        Notice
```

# request platform software trace archive

スイッチでの最後のリロード以降にシステム上で実行されているすべてのプロセスに関連するすべてのトレースログをアーカイブし、これを指定された場所に保存するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **request platform software trace archive** コマンドを使用します。

**request platform software trace archive** [*last number-of-days* [*days* [*target location*]] | *target location*]

## 構文の説明

<b>last</b> <i>noofdays</i>	トレースファイルをアーカイブする必要がある日数を指定します。
<b>target</b> <i>location</i>	アーカイブ ファイルの場所と名前を指定します。

## コマンドモード

ユーザ EXEC (>)  
特権 EXEC (#)

## コマンド履歴

リリース 変更内容  
ス

このコマンドが導入されました。

## 使用上のガイドライン

このアーカイブ ファイルは、`tftp` コマンドまたは `scp` コマンドを使用してシステムからコピーできます。

## 例

次に、過去 5 日以降にスイッチで実行されているプロセスのすべてのトレースログをアーカイブする例を示します。

```
# request platform software trace archive last 5 days target flash:test_archive
```

# request platform software trace rotate all

現在のインメモリトレースログを crashinfo パーティションに循環させ、プロセスごとの新しいインメモリトレースログを開始するには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **request platform software trace rotate all** コマンドを使用します。

## request platform software trace rotate all

### コマンドモード

ユーザ EXEC (>)

特権 EXEC (#)

### コマンド履歴

リリース	変更内容
	このコマンドが導入されました。

### 使用上のガイドライン

トレース ログ ファイルは読み取り専用を目的としています。ファイルの内容は編集しないでください。特定のログセットを表示するために、ファイルの内容を削除する必要がある場合は、このコマンドを使用して新しいトレース ログ ファイルを開始します。

### 例

次に、過去1日以降にスイッチで実行されているプロセスのすべてのインメモリトレース ログを循環させる例を示します。

```
# request platform software trace slot switch active R0 archive last 1 days target
flash:test
```

## request platform software trace filter-binary

トレースログ サブディレクトリに存在するすべてのアーカイブログを照合して並べ替えるには、特権 EXEC モードまたはユーザ EXEC モードで **request platform software trace filter-binary** コマンドを使用します。

**request platform software trace filter-binary** *modules* [**context** *mac-address*]

構文の説明	<b>context</b> <i>mac-address</i>	フィルタ処理に使用されるコンテキストを表します。また、モジュール名とトレースレベルに基づいてフィルタ処理できます。コンテキストキーワードは、タグが付いているトレースに基づき MAC アドレスまたは他の引数を受け入れます。
-------	-----------------------------------	--

コマンドモード	ユーザ EXEC (>) 特権 EXEC (#)
---------	-----------------------------

コマンド履歴	リリース 変更内容 ス
	このコマンドが導入されました。

**使用上のガイドライン** このコマンドは、モジュールに関連するすべてのプロセスを対象に、トレースログサブディレクトリに存在するすべてのアーカイブされたログを照合して並べ替えます。このコマンドでは、同じコンテンツの `collated_log_{system time}` という名前のファイルも `/crashinfo/tracelogs` ディレクトリに生成されます。

**例** 次に、ワイヤレス モジュールのトレース情報を表示する例を示します。

```
# request platform software trace filter-binary wireless
```